

9820



寺石甲

野砲二六戰詳第二五號

自昭和十四年五月六日
至昭和十四年五月二十日

潼關砲擊戰戰鬪詳報

野砲兵第二十六聯隊

0001 1

1825

一戰鬪前ニ於ケル彼我形勢ノ概要

潼關附近ノ敵重砲(十五長榴)ハ昭和十三年三月河北ノ戡定直後我が渡河作戰ヲ懼レ又隴海線掩護ノ爲現出シテ以來絶對有利ノ制高地形ニ據リ威力強大精度良好ナル射撃ヲ以テ常ニ我ヲ瞰制シ爲ニ長期ニ亘リ我が損害累加シ風陵ニ至ル約四料ノ敵砲兵ノ瞰制地域ハ之カ脅威ニ依リ一人一馬ト雖モ其ノ行動ヲ戒ムルヲ要スルニ至リ此ノ間我ハ之ガ撲滅ヲ企圖セルモ其ノ位置ヲ捕捉スルヲ得ズ又各種ノ困難ニ依リ敵ト決闘スルニ不利ニシテ撲滅ハ勿論壓倒的制壓ヲモ實施シ得サル狀況ニ在リシヲ以テ敵ハ愈々風陵ノ勝者ナリト自負スルモノノ如ク

益々猛威ヲ逞クシ又最近ニ於テハ逐次十二榴級重砲ヲモ増加シ
此ノ敵重砲ノ撲滅ハ隴海線ノ遮斷問題ト共ニ中外ノ齊シク
注目スル所トナリ軍ノ威信上極メテ重大意義ヲ有スル懸案ナ
リキ

又隴海線ハ晉南肅清戦ノ末期ニ於テ我が射撃ヲ懼レテ運
行ヲ中止シアルシガ有力ナル敵砲兵支援ノ下ニ強行通過ヲ實
施シテ以來次第ニ大膽トナリ遂ニ晝夜ノ別ナク運行ヲ續ケ數
次ノ我が遮斷射撃ノ效果モ一時的ニ止マリ敵ハ黃河ヲ隔テ千
米ノ位置ニ我が存在ヲ無視スルガ如ク連日數列車乃至十數
列車ノ運行ヲ實施シアルノ状態ナリキ

聯隊ハ臨晉地區隊ニ配屬シテリシ第四大隊(10ハク)ヲ指揮
 ニ復歸シ直轄タリシ第九中隊ヲ本作戦ニ使用スルノ外野戦
 重砲兵第六聯隊第二大隊(4ハク)工兵第二十聯隊第二
 中隊主力及第三兵站自動車隊ノ三十輛ヲ屬セラレ各々
 運城蒲州附近ニ於テ掌握シ戦闘ニ臨メリ

米不中へ然る事

ニ戦闘ニ影響ヲ及シタル氣象、地形及住民地ノ状態

ハ連日快晴ニシテ視野概ネ良好飛行隊トノ協力ニモ遺憾
 ナク後方十數村大官村上ニ派遣セシ觀測斥候ハ屢ニ潼
 關南方台上遙カニ重砲ノ發火スルヲ捕捉シテ今次砲戰成功
 ノ一因ヲ獲得セリ

ス。潼關南側ノ高地ハ我ニ對シ絶對ノ制高優位ニ在リ我ヲ瞰
 瞰シテ長旺村以南殆ト蔭蔽シ得ル所ナク晝間部隊ヲ以
 テスル行動ヲ許サズ又砲兵ノ遮蔽陣地トスベキ適當ノ地域
 ナク唯趙村北側ヨリ西王村東方ニ亘リ東西ニ長ク且ツ深キ
 地隙ノ趨ルアリテ敵眼、敵火ノ全ク及バザル死角ヲ存シ有利

ニ之ヲ利用シ得タリ

3. 土質ハ一般ニ黄河ノ推積セル黄砂ノ層ニシテ頗ル粘着力ニ乏シク工事ハ直ニ崩壊シ掩蓋砲座モ數發ノ射撃ニ依リ砲門傾斜シテ補修ヲ要セシガ如キ状態ナリ

三彼我兵力、交戦セシ敵ノ編成裝備素質戦法

ノ敵兵力

十五糧長榴弾砲又ハ加農砲

四門

十二糧榴弾砲

四門

中迫撃砲

若干

之我兵力

野砲兵第二十六聯隊長橋本中佐指揮ニ屬ス

野砲一中隊

四門

十榴大隊長以下

十榴一中隊十一小隊

五門

十五榴大隊長以下

十五榴一中隊

三門

十加一中隊

三門

工兵一中隊

自動貨車

三十輛

3. 敵ノ編成裝備素質戦法

十五加ハ二門ニ隊ノ如ク時ニ一門使用スルコトアリ十二榴
 ハ二門ニ隊ナル如ク二門宛現出シテ射撃セリ中迫撃砲
 ハ所々ニ臨時應急的ニ配置セルモノノ如シ

火砲特ニ十五加ハ精度極メテ良好ニシテ發射彈數少キ

新品ニ非ズヤト判断セラレ操法亦良好ニシテ射撃ノ修正

モ迅速適正ナリ 密偵報ノ如ク蘇聯將校來リテ射撃

指揮セルニ非ズヤトノ感アリ其ノ彈著ノ景況一例別紙

第一第二要圖ノ如シ

又我が飛行機ノ在空間全ク沈黙シ飛去後或ハ我が砲撃

0794

後特ニ光線ノ關係上日没前活動スルヲ特色トス

四戰鬪經過ノ概要

聯隊長橋本中佐ハ敵重砲ノ撲滅及隴海線ノ遮斷ハ全般ノ狀況上是非之ガ實施ノ要アルニ極メテ少數ノ兵力ト彈藥ト日數及輕易ナル準備トヲ以テ確信ヲ以テ其ノ目的ヲ達成シ得ベキ意見及半永久的砲座設置ニ關スル意見ヲモ具申シ一方自ラ飛行機ニ搭乘シテ潼關南方地區ノ敵重砲ヲ搜索シ又風陵附近ノ現地ヲ踏査シ又極力空中寫眞ヲ檢討シ敵重砲ノ位置ヲ探求シ或ハ捕虜ヲ訊問スル等準備研究ヲ進メツ、アリシガ五月八日ニ〇師作命第六五五號ノ命令ヲ受クルヤ野戰重砲兵第六聯隊第二大隊長村上少佐及工兵

中隊長岩崎大尉ニ指示シ彈藥輸送ヲ計畫シ又自ラ協力飛行隊ノ連絡者ト協定シ且空中寫眞作業、部隊ノ列車射撃ノ訓練、偵察將校要員ノ教育、空中觀測射撃ノ豫習教育等ヲ晝夜兼行實施シ又各中隊ノ關係彈導癢ノ測定、測地集合教育ノ完成ヲ促進シ或ハ今次砲戰準備ノ具體的方法ヲ教示スル等凡有砲兵戰技ノ全能ヲ盡シ成功ノ確信ヲ以テ準備ヲ整正ウ

以上ノ意見及計畫茲命令指示左ノ如シ

イ、風陵渡對鐵道砲兵陣地偵察報告 四月十日(第一圖)

ロ、十五加ニ對抗スル砲兵掩蓋陣地設備要圖 四月十日(第二圖)

八 潼關砲擊ニ關スル意見大要

五月五日

ニ 對列車射擊要領

五月六日

ホ 野砲兵第二十六聯隊(配屬部隊ヲ含ム) 戰鬥準備計畫

五月八日

ヘ 野砲兵第二十六聯隊彈藥集積計畫

五月八日

ト 野砲兵第二十六聯隊戰鬥準備ニ關スル指示

五月九日

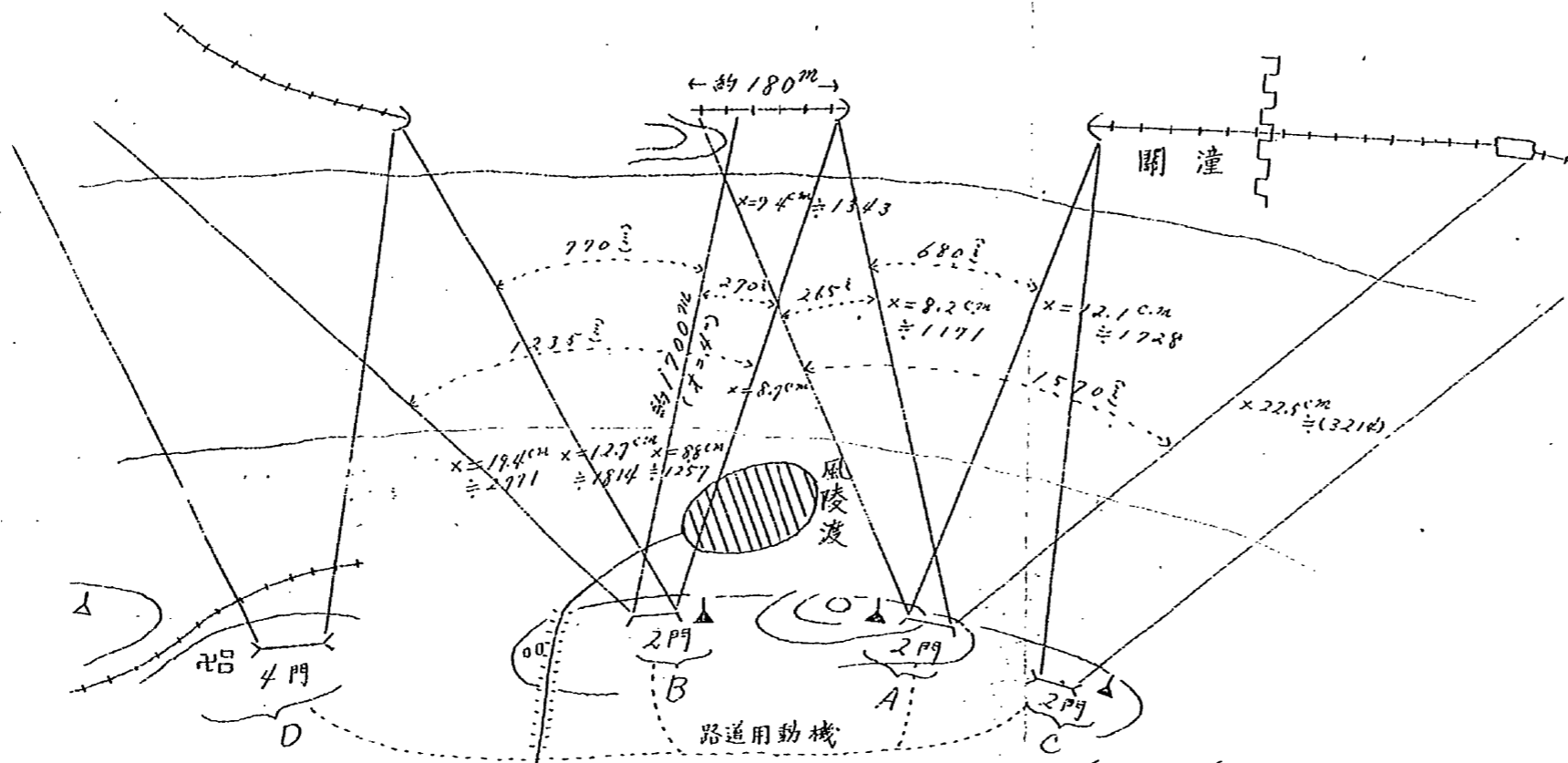
チ 砲二六作命第四六號野砲兵第二十六聯隊命令

五月九日

リ 砲兵隊ト復察 飛行隊及師團無線機トノ協定

五月十日

又 工兵作業計畫(工兵隊作製)



(第一圖) 風陵渡對鐵道砲兵陣地偵察報告
 判決 鐵道遮斷為直接照准ヲ為シ得ベキ野砲掩蓋陣地及野砲陣地ヲ要圖ノ如ク設備シ野砲一中隊(四門)ヲ以テ運行列車ヲ破壞スルヲ要ス

設備要領

- 一 A B 觀測所及砲座、洞窟式重掩蓋トシ直砲門部ノ經始ヲ適當ナラシメ
- 以テ150mm級短延期榴彈數發ノ命中ニ
- 杭直山上ヨリ山砲級砲門射撃ノ効力ヲ減殺ス
- 砲門ハ圖示ノ鐵道線路ヲ火制スルニ足ル最小限ノ高射界ヲ附與ス
- 二 C D 觀測所及砲座、輕掩蓋ヲ有スルモノトス
- 三 各火砲毎ニ待機位置及彈藥置場ヲ設備シ直進入進歩ヲ容易ナラシム
- 四 觀測所及各砲車ノ間隔ハ概不四十歩トス
- 五 各陣地相互電話連絡設備ヲナス
- 六 其ノ他詳細ハ略ス

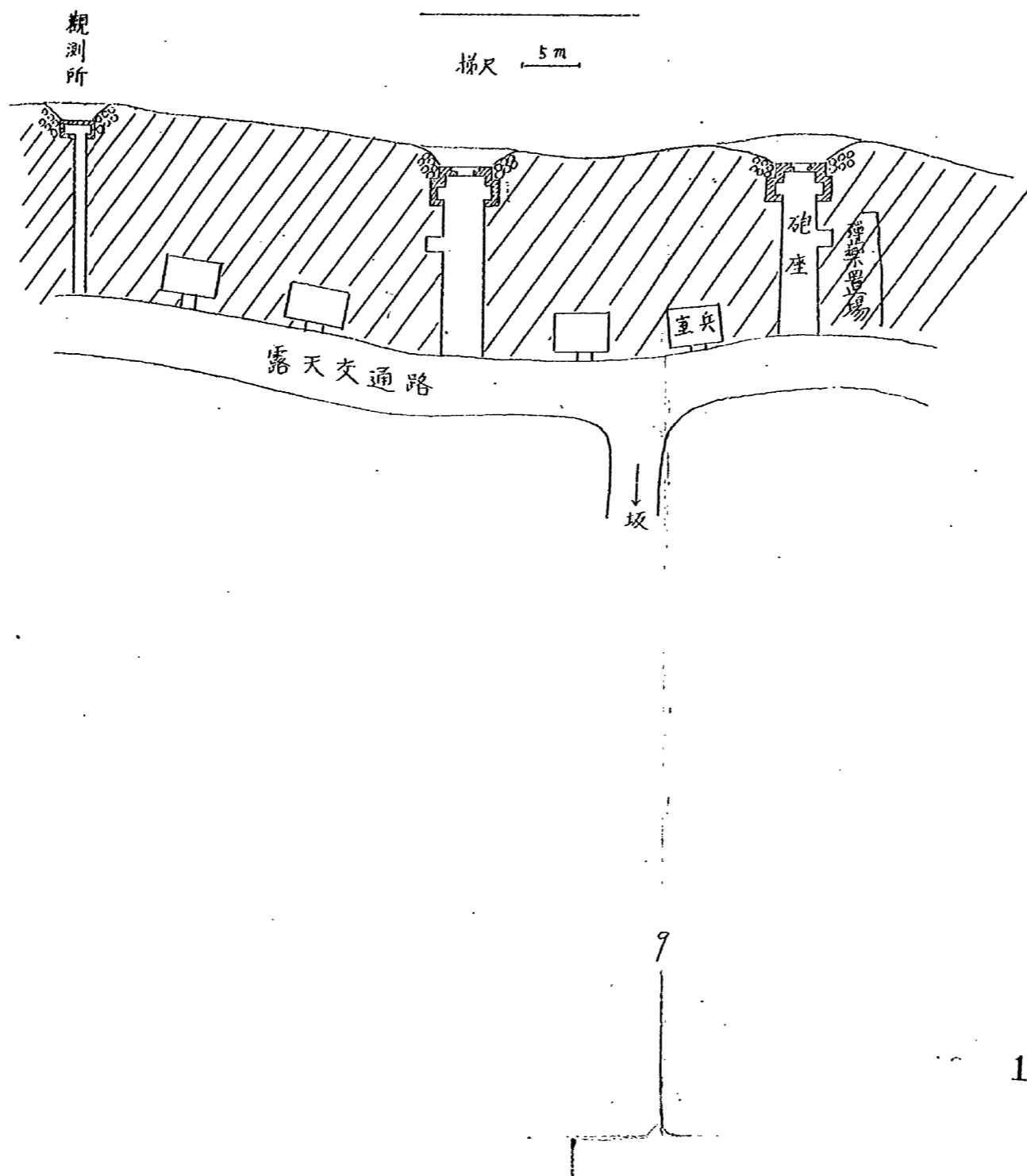
附 意 見

- 一 先速ニ列車運行列車遮斷スル為重掩蓋砲座ノ完成ヲ待ツトナク不取野砲陣地C Dヲ設備シ且野砲兵中隊ヲシテ適宜遊動用ノ豫備陣地ヲ構築セシメ射撃ヲ開始セシムルヲ要ス
- 二 右射撃ノ初期ニ於テハ十榴十加十五榴少シ各一中隊(彈藥約一基数)ヲ風陵渡ニ近テ陣地ヲ占領シテ對砲兵戰ヲ準備セシメ野砲中隊ノ射撃ヲ誘發スルト共ニ敵砲兵特ニ十五加ノ撲滅ヲ圖ルモノトス十五加撲滅ノ為特ニ偵察飛行中隊協力(垂直寫真撮影空觀射撃協力)ヲ要ス

6620

圖 般 一

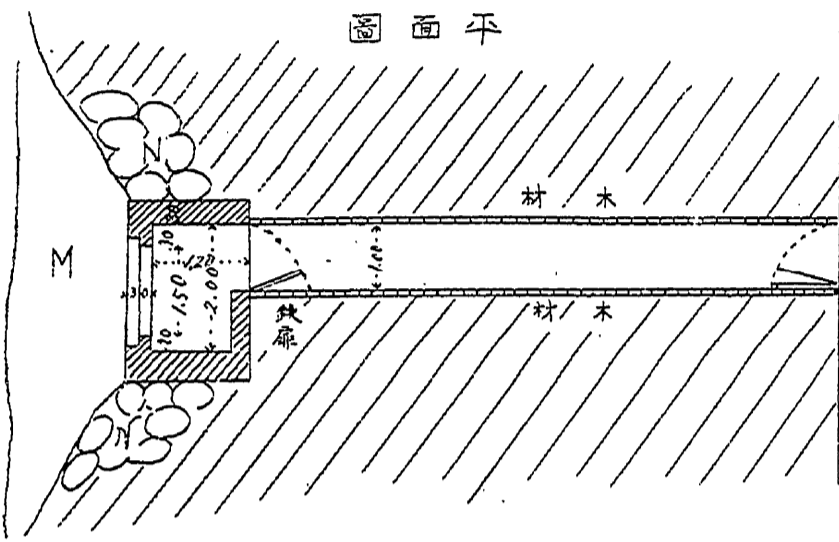
標尺 5m



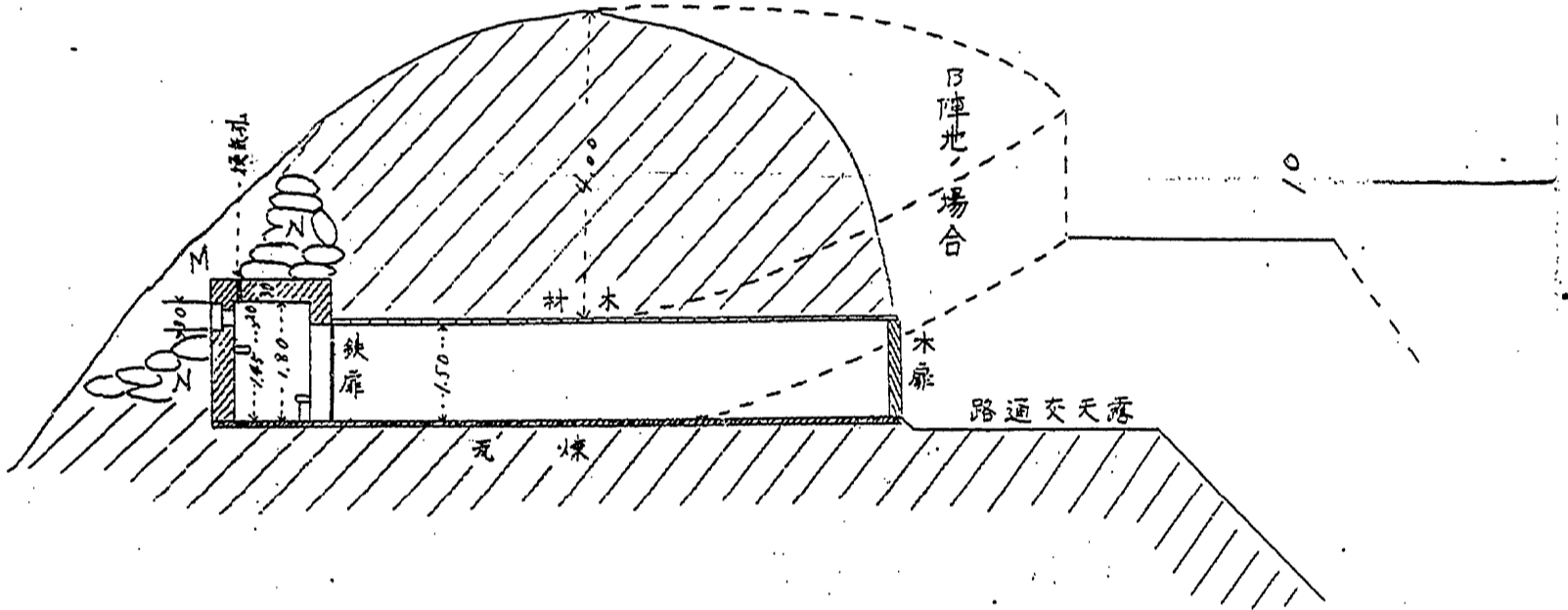
- 對五加ルニ 砲兵掩蓋陣地設備要圖 (四月十日) 橋本中佐
- 一、本要圖ハ四月十三日附陣地偵察報告ニ基キ砲兵の見地ニ依リ其ノ大要ヲ示シタルモノナリ(主トシテA陣地ニ就キ示ス)
 - 二、經始及強度等ハ全般ノ狀況特ニ敵砲兵判断ニ基キ必要ノ最小限度ニ止ムルヲ主眼トシテ其ノ構築ヲ最モ簡單容易ナラシム
 - 三、砲門部ノ開キ及進入路ノ經始等ハ現地精査ノ上定ム

其の一 觀測所

縮尺 1/100



側面圖



備考一 中隊ノ彈藥車、鞍馬其

他ノ位置等ハ別ニ選定

設備ス

二 遊動用輕掩蓋陣地(觀

測) 砲車掩体(木柵

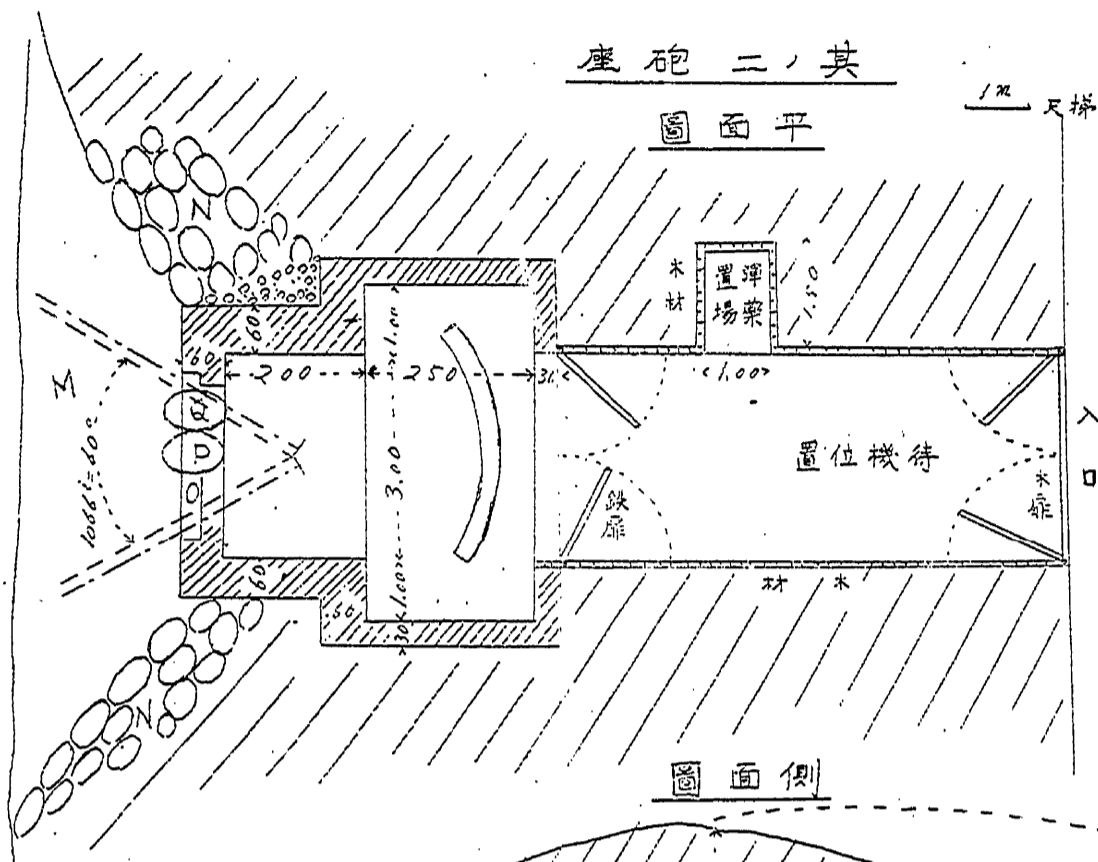
等) 以テ設備スルモノト

ス

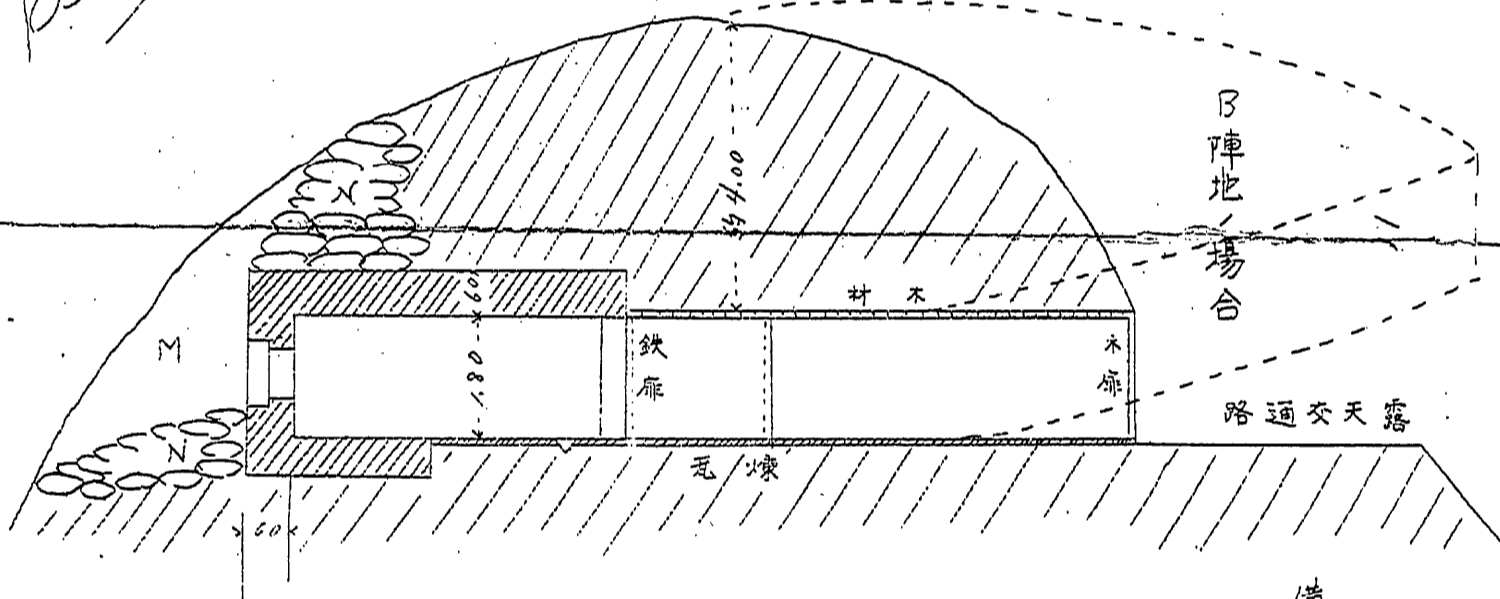
0080

其二砲座

平面圖



側面圖



備考

一 強度

(1) 掩蓋頭部ヲ鉄筋コンクリート厚サ
60cm 他ヲ30cmトシ且主トシテ砲門部ニ

軌條ヲ挿入ス

(2) 其ノ他ハ木材(枕木)ヲ以テ構築ス

二 O.P.Q

(1) 中央部線路ヲ射撃スル場合土囊表
ヲ以テP.Q、如ク臨機填塞シO

部ヲ使用ス

(2) 右方部線路ヲ射撃スル場合ハQ
ヲ開キテ使用ス

三 M.N

敵ニ企圖ヲ秘匿シテ内部作業ヲ完
成シ該砲座ヲ使用シ得ルニ至リ一舉ニ
外部ヨリM部ヲ削開シ且N部ニ砂利
及土囊ヲ入レテ掩蓋頭部ヲ死護ス

1080

潼關砲撃ニ關スル意見大要

五月五日 橋本中佐

一 緊急對策

(一) 要旨

一 我カ兵團ノ責任期間ニ於テ是非隴海線遮斷ト敵重砲撲滅ノ懸念案ヲ解決スルヲ要ス

二 而シテ隴海線ヲ遮斷シ次期作戰ニ直接効果アラシムルト共ニ次期作戰ニ重複セザル為補充員到着以前即チ概ネ五月二十日迄ニ之ヲ實施スルヲ要ス

三 本砲撃ニ依リ隴海線ヲ遮斷スルト共ニ敵砲兵ノ現出ヲ誘致シ之ヲ撲滅スルノ一舉兩得ノ效果ヲ收ムルモノトス

蓋シ敵重砲依然存在スルナレバ撲滅ノ好機ナリ

四 砲撃ノ為ニ最モ迅速ニ效果ヲ收ムベキ方法ヲ執ルヲ要ス
準備ノ為ニハ約五日ニテ足ル而シテ射撃ノ命中及效果ニ關シテハ確信ヲ有ス

五 遮斷射撃ニハ初期ニ於テハAノ直接照準射撃ヲ主トシ

ノ鐵路破壊射撃ヲ併セ用フ

6. 遮断射撃開始後數日間監視ヲ繼續シ其ノ結果ニ依リ爾後所要ノ砲兵ハ逐次原駐地ニ歸還セシム

但シAハ六月下旬迄ニハ歸還セシムルモノトス

ニ將來ノ為ノ對策

1. 先般ノ提出意見ノ如ク速ニ最小限度ノ重掩蓋砲座ノ構築ニ着手シ敵ニ秘匿シテ之ヲ完成ス

2. 之ニ據リ野砲(三八式野砲トシ九〇式ナド尚可)ノ遮断射撃ヲ繼續ス

但シ對砲兵ノ為別ニ十加中隊ヲ要ス

3. 大威力重砲ニ依ル鐵路破壊ハ實際上ノ利害ヲ考慮シ前記ノ外ニ之ヲ併用セバ更ニ有效ナリ

備考

以上ハ渡河セザルヲ以テ前提トシ又將來ノ為ノ對策ハ將來ニ亘リ現在狀勢ガ異ラザルヲ基礎トシタル意見ナリ

(二) 所要兵力 (戦闘部隊ノミ)
砲兵指揮官 (對空連絡機關ヲ含ム)

砲 A (四門) 10H (三門)
砲 15H (三門) 10K (三門)

工兵小隊及自動貨車 少クモ五

砲兵任務 三機 (空中觀測用)

爆撃 六 (隨時協力 (敵砲兵撲滅ノ為))

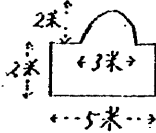
此ノ際要スレバ在虞郷 10H (三門) ヲ韓陽鎮附近ニ推進シ警
備兵力ヲ増強スルモ可

(三) 所要彈藥、材料

彈藥 土囊 輕掩蓋材料 (板、レール、杭)

10k 15H 10H A

五〇〇發 五〇〇ヶ
四〇〇 二〇〇
三〇〇 二〇〇
三〇〇 二〇〇



75

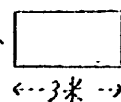
第六日	第五日	第四日 (夜)	第三日 (夜)	第二日 (夜)	第一日 (夜)	日次
拂曉射擊開始		陣地進入及前夜ニ同ジ	陣地構築及彈藥集積	搜索及射擊準備	展開命令下達及在運城附近部隊ハ蒲州附近ニ集結	陣地偵察
第一期		前日ニ同ジ	前日ニ同ジ	前日ニ同ジ	前日ニ同ジ	展開命令下達及在運城附近部隊ハ蒲州附近ニ集結

(四) 行動ノ概要

動

別ニ

↑
2米
↓



觀測所ニケ分ノ輕掩蓋材料

昭和十一年
三月

第七日	第八日	第九日	第十日
第二期			
第一期ノ射撃結果ニ基キ逐次 所要ノ10H 15H 10Kノ一部又ハ全力 ノ原駐地ニ飯還セシム			

備考

一 指揮機關及部隊ハ夫々第一日ノ行動ニ移リ得ル如ク運
 城ヲ出發セシム

二 第五日拂曉射撃開始迄ハ絶對ニ我が企圖行動ヲ秘匿
 ス之ガ為晝間ノ行動ハ極力之ヲ制限ス

一、この要領は
砲車位置の
測定に必要
な事項を
示す。

對列車射撃要領

昭和十四年五月六日

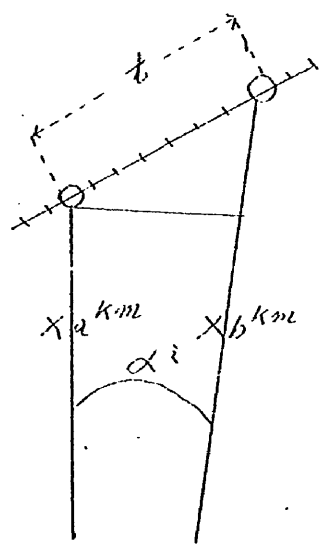
聯隊長

一、射撃目標及目的

小沿子ノ墜道ヲ出テタル區間ニ於テ機関車ノ破壊ニ依ル鐵道遮断ヲ行フ

二、射撃準備

- イ、砲車位置ハ方向及高低共ニ發射後ノ點檢ヲ要セザル如ク固定ス
- ロ、列車ノ秒速及機關車ノ長サ及高サヲ測定ス

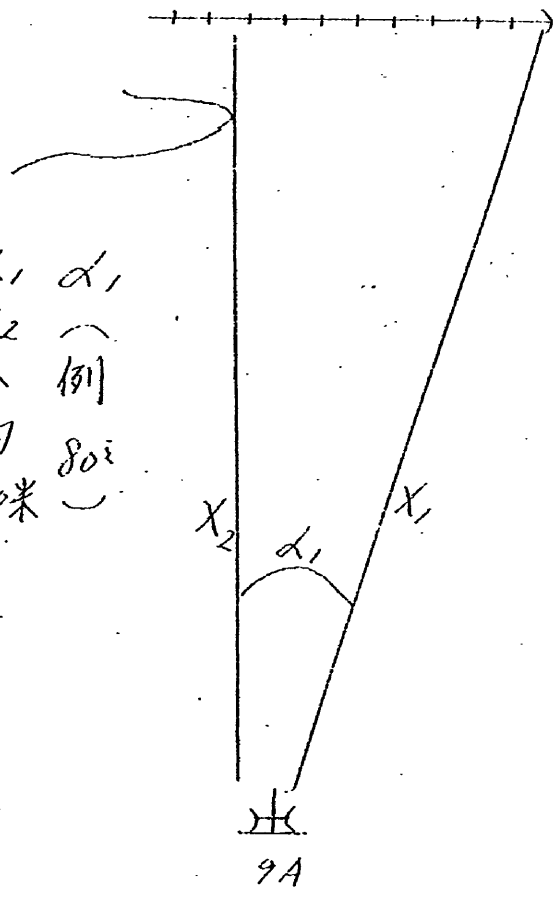


$$\frac{ab}{t} = n$$

秒米 (例 六秒米)

ハ射撃シ得ル區間ノ方向 α_1 及射距離ハ兩端 X_1
 X_2 ヲ測定ス

α_1 (例 80°)
 X_1, X_2 ハ約 100米ノ差ナルヲ以テ
一距離 X ト見做ス (例 1400^m)



ニ機關車が墜道ヲ出デタル時機ヨリ發射ヲ令シ
 其ノ射彈ガ彈著スル迄ノ所要時間 t_1 及 t_2 ニ
 應ズル方向修正量 α ヲ求ム

發射迄ノ時節時(例 2°)
 彈丸經過時間(例 4°)
 $t_1 = 6^{\circ}$

$$\frac{t_1 \times n}{\times km} = \alpha$$

(例 2°)

ホ第一群射準備

一 基準射向 墜道口ノ左(例 26°)
列車右行場合ハ左端ヨリ右 $264/6=36^{\circ}$

二 射彈正面幅

目標幅ト方向未來修正量ノ精度ニ應ジ決

定ス(例 10°)

三 高低 線路ノ上方若干米トス(例 3°)

四 彈數 各門一發

ハ第二群射準備

轉把旋回ニ依リ未來位置ニ射向ヲ指向ス

第一彈ヨリ第二彈迄ノ發射間隔
 4" 間ノ未來位置
 $6'' \times 4'' = 24''$
 $\frac{24}{1.5} = 16$
 $\frac{16}{3.5} = 5$ 回
 3" | 4"

彈數 約 五 | 八 發

第二發目以後ハ列車通過時間ニ應ジ
 射撃ス

ト第三發目モ第二發目ト同様ニ左五回ノ轉把旋
 回ヲ行ヒ射彈ヲ追隨セシムル案モ亦可
 チ夜間ハ方向附近ヲ連續發射スル案モ亦可

墜道口ヲ出デル時機ノ音響又ハ火煙ニ依リ
 發射ヲ令シ彈著スル迄ノ時間ヲ約 12" トセバ
 概ネ P₃ P₄ ノ中間ニ在ル頃ヨリ發射ス
 リ晝間經過時間ニ應ズル未來修正及偏流量ヲ
 修正シテ直接照準ニ依リ追隨シテ行フ連續

試射
試射
試射

三、射撃實施

射撃モ亦可

偏流修正量
故ニ
左行
右行

(例) +22
(例) -26
(例) -2
(例) 24

イ、試射 各門毎ニ直接照準ニ依リ墜道口附近

ノ線路ニ試射ス

ロ、試射終レバ之ヲ間接照準ニ移シ方向ハ所望ノ

方向ニ指向シ高低角ヲバ増シテ諸元ヲ保留ス

ハ列車ニ對スル射撃

ノ所要ニ應ジ砲車毎ニ指揮官ヲシテ發射セシ

ム

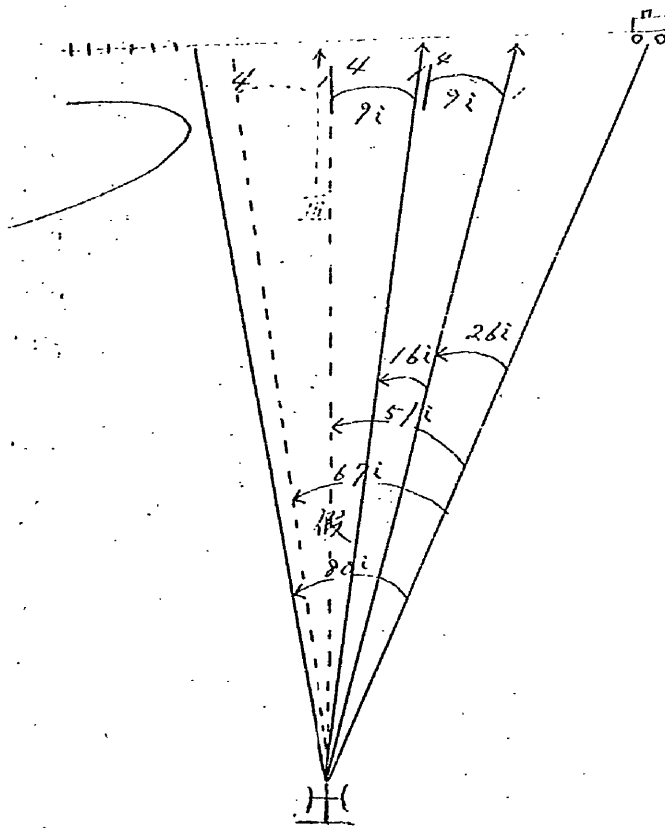
ニ、方向 高低ノ發射後ノ點檢ヲ行ハズ(ニ番ハ

- 水準器ノ氣泡ヲ監視スルノミトス)
3. 第三發目以後ハ駐退機ノ復坐間ニ開機及
裝填ヲ終ル
 4. 發射ハ一番ノ閉機時機ニ分隊長之ヲ令ス
 5. 全部發射後高低水準器ヲ點檢シ氣泡著シ
ク偏位シアレバ砲座ヲ更ニ固定ス
 6. 直接照準ヲ行フ場合ニ在リテモ二番ハ接眼鏡
ノ位置ヲ左ニシタノ要領ニテ發射ス
- 以上ハ戰鬥初期ノ為執ル可キ射撃法ヲ示シタルモノ
ナリ射撃部隊ハ實際ノ經驗ニ基キ目標ノ狀態ト
部隊ノ射撃能力ニ即應シ創意工夫以テ必中ヲ期
スベキナリ

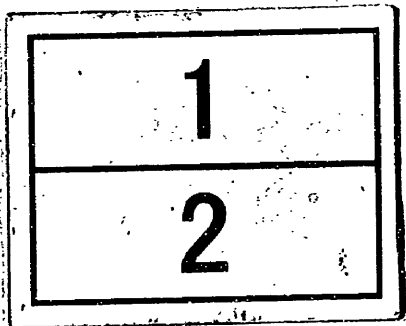
8180

選定シテ可ナリ
Pノ基準線ハ左端ノ餘裕ニ應ジ任意左方ニ

射撃要圖



分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	野砲兵第26連隊(配属部隊を含む)戦闘準備計画
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

考 備	砲 擊						砲 擊 準 備						結 集			間 期				
	期 二 第			期 一 第			17		16		15		14		13	12	11	次 日		
	23	22	21	20	19	18	十五榴	加 火	十五榴	加 火	十五榴	加 火	十五榴	加 火	十五榴	加 火	A 榴	彈 種 數 量		
楊賢村、辛店村、長旺村以南ハ自隊段列等ヲ以テ前送スルモノトス 十八日以降狀況ニ應ジ聯隊自動車班ヲ運用スルコトアリ							五〇〇	三〇〇	四〇〇	四〇〇	一〇〇	一〇〇	二〇〇	三〇〇	四〇〇	三〇〇	三〇〇	五〇〇	五〇〇	
							虞郷	長旺村	虞郷	楊賢村	虞郷	辛店村	虞郷	辛店村	楊賢村	虞郷	虞郷	蒲州	到 著 地	
							自 動 車	長旺村	自 動 車	楊賢村	自 動 車	辛店村	自 動 車	辛店村	自 動 車	楊賢村	鐵 道	鐵 道	自 動 車	鐵 道 別
							掘 自 動 車 隊		掘 自 動 車 隊		掘 自 動 車 隊	二部	砲兵隊使用自動車	兵器部輸送担任	砲兵隊使用自動車	十一日及從來ノ集積彈トス	兵器部担任	掘 自 動 車 隊 輸 送	掘 自 動 車 隊 輸 送	摘 要

野砲兵第二十六聯隊彈藥集積計畫

昭和十四年五月八日

野砲兵第二十六聯隊戰鬥準備ニ関スル指示

昭和十四年五月九日十一時
於王家營 聯隊本部

一 聯隊ハ三口師作命甲第六五五號ニ據リ別紙戰鬥準備計畫ニ基キ速ニ準備ヲ為サントス

ニ 各隊ハ各々指示スル所ニ從ヒ準備スベシ

三 射撃準備

イ 試驗射撃ノ成果ハ四月十一日正午迄ニ報告スベシ

ロ 第九中隊ハ別紙ノ方法ニ依リ對列車射撃ヲ演

練スベシ

ハ 各隊(第九、第十一中隊ヲ除ク)ハ特ニ測地及寫真ノ

利用ニ依ル轉移射撃並飛行機觀測射撃ヲ演練

シ置クベシ

四 小池少尉ハ測地及標定ヲ準備スベシ

イ 空地ノ目標授受用地圖(方眼ヲ描畫シ且地點番

號ヲ記入ス)ヲ作製スベシ

ロ 基礎測地ハ圖解法ニ依リ標高ハ測量セズ又方向

基線、測角基準線ハ使用セザルモノトス
 ハ重直空中寫眞ニ斜寫眞ヲ連結シ且之ヲ測地ニ連
 結スベシ

ニ測地ニ續キ砲兵隊ノ為ニ交會標定ヲ行フモノトス
 五 稲田中尉ハ偵察隊、爆撃隊及師團無線機ト左記
 ノ如ク協定スベシ

一 敵重砲ノ發火ニ先チ撲滅ヲ準備スル場合

一 偵察機ハ效力射準備射撃中期ニ第一機飛來

シ敵重砲ノ豫想位置ニ對スル試射ヲ觀測シ爾

後交互ニ適時飛來シ在空中監視ス

二 爆撃機ハ適時飛來シ在空中監視ス

三 敵重砲發火セバ口ノスレノ如ク實施ス

四 敵重砲ヲシテ先ツ發火セシメ之ヲ確認シタル後撲

滅スル場合

一 偵察、爆撃機ニ待機シ敵ニ我機影ヲ見セズ敵重

砲發火セバ無線ノ連絡ニ依リ或ル可ク三十分以
内ニ飛來ス

2. 發火ノ位置ヲ確認シ空觀射撃ニ協力シ或ハ爆
撃シ徹底的ニ之ヲ撲滅ス

ハ飛行機觀測射撃ハ片通信(對地無線)ニ依リ連絡
及射撃ハ別紙要領ニ依ル

ニ無線ハ聯隊本部ノモノヲ使用シ對空布板ハ村上
大隊ノモノヲ使用ス

ホ地圖ハ豫メ準備セルモノヲ使用ス

ハ十五日以前飛行機及在飛行場師團無線機豫メ
無線連絡ヲ實施シ豫習シアルベシ

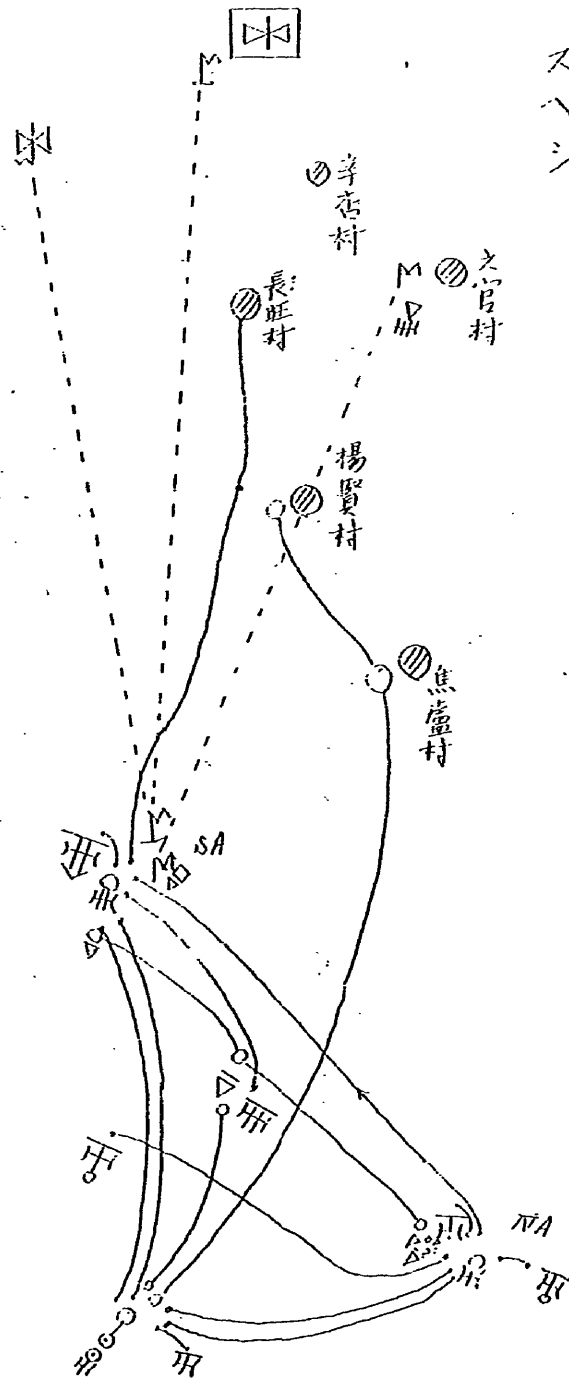
六日置中尉・平井少尉・大東准尉ハ空中觀測(無線ハ
飛行隊ノモノ擔任)ニ任ジ得ル如ク豫習シ置クベシ
協定ニ關シテハ別ニ示ス

七山本准尉ハ左圖ノ要領ニ基キ通信網構成ノ準備ヲ為

スベシ

ハ北川中尉ハ揚賢村ニ計畫ノ如ク彈藥ヲ集積スベシ
部隊ハ編成ニ應ジ彈藥ヲ携行スルモノトス

イ有線ハ指揮用ハ悉ク往復線トス
ロ。○。及M MハR擔任トス
ハ既設通信網ハ之ヲ副通信トシテ利用ス



九、幸少尉ハ聯隊本部ノ輸送及宿營、給與ニ關シ計畫ス
ベシ

十、第四大隊長ハ野砲隊ノ爲楊賢村一陣地間ノ荷馬車
ヲ以テスル彈藥ノ輸送及給與ニ関シ準備スベシ

陣地占領後ノ車馬ハ蒲州ニ待機スルモノトス

十一、五榴大隊ハ自ラ彈藥ヲ楊賢村ニ集結シ且同地ヨリ
陣地ニ馬車ニ依ル輸送ヲ行フ

十加中隊ハ自ラ長旺村ヨリ直接陣地ニ彈藥ヲ集積ス

十二、第四大隊ヨリ差出スベキ交通整理掛將校ハ十三日交通
整理ニ關スル計畫ヲ蒲州ニ於テ報告スベシ

該將校ハ楊賢村ニ於ケル集積地ノ監視警戒ヲ兼ヌル
モノトス

聯隊長 橋本中佐

砲兵隊ト偵察爆撃隊及師團無線機ト協定

五月十一日
於漢城師團司令部

聯隊長

橋本中佐

(一) 戦闘指導ノ方針

1 極力企圖ヲ秘匿シテ戦闘ヲ準備シ一舉ニ目的ヲ達成ス

2 敵砲兵特ニ重砲ノ現出ヲ誘致シ飛行隊ト協力シ好機ニ投シ之ヲ徹底的ニ撲滅ス

3 鐵道ニ對シテハ小沿子墜道口ニ於テ野砲ニ依リ運行機關車ヲ急襲破壊ス

前記ノ目的達成後爆撃及砲撃ニ依リ鐵道ヲ破壊ス

(二) 戦闘指導要領

一 砲撃準備期

(自十一日五時)

偵察機 爆撃機ハ待機シ事前偵察ノ爲ニ交

互ニ飛來シ偵察機ハ併セテ飛行機觀測射撃ヲ豫習ス

2. 本期間敵砲兵若シ猛威ヲ逞クセバ十加ハ

陣地楊賢村西側ヲシテ掩護射撃ヲ實施セシム

又要求ニ依リ爆撃機モ飛來シ之ヲ爆撃ス

六砲撃

第一日 (十八日)

A案 準備間ニ敵重砲ノ位置ヲ知レル場合

一 拂曉ヨリ十加、十榴、十五榴ヲ以テ概

テ中坵塔、陶家庄ノ台端ニ試射シテ射

弾ヲ掌握ス

2. 次デ中觀測ニ依リ敵重砲ヲ撲滅ス

3. 此ノ間目標視シ得ル敵砲兵ハ適時一部ヲ

以テ撲滅セシム

(要スルバ偵察機飛來スルメ)

4 爆撃機ハ徹底的ニ之ヲ爆撃ス

B案 我ガ企圖ヲ秘匿シ敵重砲ノ發火ヲ誘致スル場合

1 砲兵ハ拂曉ト共ニ一部火砲ヲ以テ前面ノ高地端附近ニ試射ス

2 中ハ待機ス

3 敵重砲發火セバA案2以下ト同様トス

C案 我ガ企圖ヲ秘匿スル爲全砲兵沈黙シ

テ好機ノ到来ヲ待ツ場合

1 十加、十榴、十五榴ハ射撃ヲ行ハズシ

テ沈黙ヲ守ル

2 中ハ待機ス

運行列車ニ對スル野砲ノ射撃ニ應ジ敵重砲之ニ誘致セラレテ發火セバ中觀測

三砲撃第二日以後ハ前日ノ状況ニ依リ之ヲ決
定ス
3. 爆撃機A案々ニ同ジ
ニ依リ之ヲ撲滅ス

(三) 出發時刻 服務時間ノ基準
無線受信ニ依リ約四十分以内ニハ上空ニ飛來
ス

服務時間 一時間乃至一時間四十分

(四) 連絡用番號 特ニ設ケズ
(五) 射撃部隊ノ配置 (豫定)

十	十	十	對空通信所
五	榴	榴	田村
榴	中隊 (2A)	中隊	田村 (三門)
			趙王村 (三門)
			西王村 (三門)

(六) 射撃實行ニ關スル計畫ハ後報ス

射撃目的 敵重砲ノ撲滅
榴彈ノミヲ使用ス

射撃順序 常ニ右ヨリ
射撃法 群射

但シ必要ノ場合ハ砲車ノ偏差
ヲ通報ノコト

十加、十榴ノ同時観測ト十五榴中隊ノミ
ノ観測多カルベキヲ豫想ス

(七) 射弾観測 射線観測
(八) 目標授受ノ方法

人聯隊ニテ方眼ヲ描畫セル五百分一地圖ニ依
ル直角座標ヲ用フ

座標ハX、Y共ニ何千何百ノ各ニ數字ノ

連記ニテ表ハズ(例 座標 45° 83')

2. 目標番號(別紙)ヲ用フ

但シ該番號ハ村落ヲ表ハシ其ノ北縁中央ヲ基準トス

3. 前(後)ノ方決定法ハ用ヒズ

(九) 空地連絡法

相互ニ無線電話トス但シ地上 無線電信ノ片

通信ヲ使用ハ可能ナリ

無線故障ノ場合ハ歸還シ代機飛來ス

(十) 爆撃機モ偵察機在空セザル場合亦無線連絡ヲ行フコトアリ

(十一) 臨時教育ニ依ル砲兵空中觀測者

目置中尉、平井少尉、大東准尉

(十二) 鐵道ニ對スル爆撃ハ前述ノ如ク野砲ニテ運行

(五) 敵重砲ノ撲滅成果ハ空中寫眞ニ撮影ス
 列車ヲ破壊スル迄ハ實施セズ而シテ作戰末期
 聯隊長ノ要求ニ依リ之ヲ實施ス